

インターバンクの声（2015年6月2日）

週明けのニューヨーク市場で発表された米4月の建設支出と5月のISM製造業景況指数の結果が市場予想を上回り、落ち込んでいた1-3月期の成長からの回復期待感がより高まったようだ。すでに金曜日の雇用統計に向けて連邦準備銀行（FRB）の年内利上げ観測も強まる傾向にあったが、それを昨夜の指標結果がさらに後押しする格好となった。ただ、直接連邦公開市場委員会（FOMC）の決定に影響するわけではないが、ルー財務長官は、「弱い第1・四半期の成長は一時的要因によるものとの判断は尚早」「引き締め開始の条件はまだ整っていない」などと発言。FOMCへ圧力を掛ける意図はないと思われるが、市場の早い時期での利上げ観測が強くなり過ぎる傾向に警鐘を鳴らしたかったのかも知れない。雇用統計の結果が予想とかけ離れる可能性も考えられない訳ではないが、昨夜のISM製造業景況指数の雇用指数も51.7と2ヵ月ぶりに50を超えてきたので、極端に悪化する公算は低いだろう。118円から120円を少し超えたレンジでの取引が長く続いたドル円相場だが、122円台と124円台の強いと思われていた抵抗線をいとも簡単に抜けてしまったのが少し気掛かりだ。既に125円にも手が届くところに迫ってきたが、円の買い戻しへの警戒感が余りに薄いことに注意が必要だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。